

Kurume College		Year	2018		Course Title	環境倫理学
Course Information						
Course Code	6C03			Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture			Credits	Academic Credit: 2	
Department	物質工学専攻（生物応用化学コース）			Student Grade	Adv. 1st	
Term	Second Semester			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	藤本 温（編著）『技術者倫理の世界（第3版）』、森北出版；その他の教材・資料については、講義中に適宜配布する。					
Instructor						
Course Objectives						
1. 科学技術の発展によって現実が生じている環境及び技術者倫理の問題の実情を理解する。 2. 倫理と法についての関係を的確に捉えることができる。 3. 環境及び技術者倫理の問題を個人の視点・団体の視点・科学技術の視点で論じることができる。						
Rubric						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1		現実が生じている環境及び技術者倫理の問題の実情を理解している。	現実が生じている環境及び技術者倫理の問題の実情に関する知識を有している。	現実が生じている環境及び技術者倫理の問題の実情を理解できていない。 もしくは理解が不十分である。		
評価項目2		倫理と法についての関係を的確に捉えた上で、事例分析に用いることができる。	倫理と法についての関係を的確に捉えることができる。	倫理と法についての関係が理解できていない。 もしくは不十分な理解に留まっている。		
評価項目3		環境及び技術者倫理の問題を個人の視点・団体の視点・科学技術の視点で論じ、分析することができる。	環境及び技術者倫理の問題を個人の視点・団体の視点・科学技術の視点で論じることができる。	環境及び技術者倫理の問題を個人の視点・団体の視点・科学技術の視点で論じることができない。 もしくは論じるための資料収集と調査ができない。		
Assigned Department Objectives						
JABEE A-1						
Teaching Method						
Outline	現代社会は、急速な科学技術の進歩に伴い、「技術者の開発・製造した装置や技術者の行動が社会に対して大きな影響を与える時代」となっている。同時に、科学技術の進歩が地球環境にも大きな影響を与える時代となっている。このような中で、技術者は、公衆に対する危機管理及び説明責任の重要性を認識し、技術者が地球環境及び人間社会に対して負っている責任を的確に自覚する必要がある。この授業では、様々な環境及び技術的な問題に起因するトラブルや事故の事例の検証を通して、法と倫理の関係を正しく捉え、社会が技術者に求める正しい倫理観を養いつつ、その概念と知識について学習し、演習を通して実践力を養う。					
Style	・担当教員による講義の後に、課題（簡単な小論文）に取り組む（全12回）。 ・全講義期間の中で、一人当たり2回の事例発表（環境問題and/or技術者倫理の問題）を行う。 ・事例発表の際は、十分な調査を行い、パワーポイントで資料を作成する。なお、作成したパワーポイントの資料は、そのまま提出レポートとする。 ・理由の如何を問わず、事例発表の資料の作成を怠った場合は大幅に減点する。 ・15回目の授業では、講義の後、指定された課題の小論文作成に取り組み、提出する。※試験は実施しない。					
Notice	点数配分： パワーポイントで作成された資料および発表（2回）30%、毎時間の課題（簡単な小論文：1～12回）70%を目安として評価する。 再試験：行わない。 評価基準：60点以上を合格とする。 本科目は学修単位科目であるので、授業時間以外での学修が必要であり、これを課題として課す。					
Course Plan						
			Theme	Goals		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	ガイダンス（授業の進め方、成績評価方法、再試験の有無等）本授業の目的と概要、評価方法について理解する。			
		2nd	環境倫理及び技術者倫理の視点として、個人の視点、団体としての視点、技術的な視点について理解できる。			
		3rd	倫理と法の関係について理解できる。			
		4th	演習（Ⅰ）環境問題及び技術者倫理の問題について過去の事故・事件等の事例を調査・分析できる（プレゼン演習）。			
		5th	技術者が最優先に取り組むべき「公衆の安全、健康、福利」について理解できる。			
		6th	環境問題及び技術者倫理の問題で取り扱う「安全性とリスク」について、理解できる。			
		7th	経営上問題となる「費用便益分析」と「製造物責任法」について理解できる。			
		8th	演習（Ⅱ）環境問題及び技術者倫理の問題について過去の事故・事件等の事例を調査・分析できる（プレゼン演習）。			
	4th Quarter	9th	倫理的問題の特徴である相反問題・線引き問題について理解できる。			
		10th	組織の問題として「企業倫理」と「技術者倫理」の関係について理解できる。			
		11th	内部告発として知られている「公益通報」について理解できる。また、日本の「公益通報者保護法」について理解できる。			

		12th	地球的視野を持つ技術者の倫理観（異文化の倫理観）について理解できる。	
		13th	演習（Ⅲ）「技術士第一次試験」において環境倫理及び技術者倫理と関連の強い「適正科目」の既出問題を調査し、分析ができる。	
		14th	環境倫理及び技術者倫理を実践する場合に求められるコミュニケーション能力について理解できる。	
		15th	授業の総括，及び，演習（課題に対する小論文）	
		16th		

Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	Total
Subtotal	0	30	0	0	0	70	100
基礎的能力	0	15	0	0	0	35	50
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	15	0	0	0	35	50